

妙法蓮華經。觀世音菩薩普門品。第二十五

爾の時に無盡意菩薩、即ち座より起つて、偏に右の肩を袒にし、合掌し佛に向いたてまつりて、是の言を作さく、

世尊、觀世音菩薩は何の因縁を以てか觀世音と名くる。佛、無盡意菩薩に告げたまわく、

善男子、若し無量百千萬億の衆生あつて諸の苦惱を受けんに、是の觀世音菩薩を聞いて一心に名を稱せば、觀世音菩薩即時に其の音聲を觀じて、皆解脱することを得せしめん。

若し是の觀世音菩薩の名を持つことあらん者は、設い大火に入るとも火も焼くこと能わじ、是の菩薩の威神力に由るが故に、若し大水に漂わされんに、其の名號を稱せば即ち淺き處を得ん。若し百千萬億の衆生あつて金・銀・瑠璃・碑磔・碼碯・珊瑚・琥珀・眞珠等の寶を求むるを爲て大海に入らんに、假使黑風其の船舫を吹いて、羅刹鬼の國に飄墮せん。其の中に若し乃至一人あつて觀世音菩薩の名を稱せば、是の諸人等皆羅刹の難を解脱することを得ん。是の因縁を以て觀世音と名く。

若し復人あつて當に害せらるべきに臨んで、觀世音菩薩の名を稱せば、彼の執れる所の刀杖、尋いで段段に壞れて、解脱することを得ん。若し三千大千國土に中に滿てる夜叉・羅刹來つて、人を惱さんと欲せんに、其の觀世音菩薩の名を稱するを聞かば、是の諸の惡鬼、尙お惡眼を以て之を視ること能わじ、況んや復害を加えんや。

設い復人あつて若しは罪あり若しは罪なきに、杻械・枷鎖其の身を檢繫せん。觀世音菩薩の名を稱せば、皆悉く斷壞して、即ち解脱することを得ん。若し三千大千國土に中に滿てる怨賊あらんに、一りの商主あつて諸の商人を將い、重寶を

齋持して險路を経過せん。其の中に一人是の唱言を作さん、

諸の善男子、恐怖するを得る勿れ。汝等應當に一心に觀世音

菩薩の名號を稱すべし。是の菩薩は能く無畏を以て衆生に施

したもう。汝等若し名を稱せば、此の怨賊に於て當に解脱する

ことを得べし。

衆の商人聞いて俱に聲を發して、南無觀世音菩薩と言わ

ん。其の名を稱するが故に即ち解脱することを得ん。無盡意、

觀世音菩薩摩訶薩は威神の力巍巍たること是の如し。

若し衆生あつて姪欲多からんに、常に念じて觀世音菩薩を

恭敬せば、便ち欲を離るることを得ん。若し瞋恚多からんに、

常に念じて觀世音菩薩を恭敬せば、便ち瞋を離るることを得

ん。若し愚癡多からんに、常に念じて觀世音菩薩を恭敬せば、

便ち癡を離るることを得ん。無盡意、觀世音菩薩は是の如き等

の大威神力あつて、饒益する所多し。是の故に衆生常に心に

念ずべし。

若し女人あつて設い男を求めんと欲し、觀世音菩薩を禮拜し

供養せば、便ち福德・智慧の男を生まん。設い女を求めんと欲

せば、便ち端正有相の女の宿徳本を植えて衆人に愛敬せらる

るを生まん。

無盡意、觀世音菩薩は是の如き力あり。若し衆生あつて

觀世音菩薩を恭敬禮拜せば、福唐捐ならじ。是の故に衆生皆

觀世音菩薩の名號を受持すべし。無盡意、若し人あつて六十二

億恒河沙の菩薩の名字を受持し、復形を盡くすまで飲食・衣服

・臥具・醫藥を供養せん。汝が意に於て云何、是の善男子・

善女人の功德多しや不や。無盡意の言さく、甚だ多し、世尊。

佛の言わく、若し復人あつて觀世音菩薩の名號を受持し、

乃至一時も禮拜し供養せん。是の二人の福、正等にして異なるこ

となけん、百千萬億劫に於ても窮め盡くすべからず。無盡意、
觀世音菩薩の名號を受持せば是の如き無量無邊の福德の利を得
ん。

無盡意菩薩、佛に白して言さく、

世尊、觀世音菩薩は云何してか此の娑婆世界に遊び、云何して
か衆生の爲に法を説く、方便の力其の事云何。佛、無盡意
菩薩に告げたまわく、

善男子、若し國土の衆生あつて佛身を以て得度すべき者に
は、觀世音菩薩即ち佛身を現じて爲に法を説き、辟支佛の身を
以て得度すべき者には、即ち辟支佛の身を現じて爲に法を説
き、聲聞の身を以て得度すべき者には、即ち聲聞の身を現じ
て爲に法を説き、梵王の身を以て得度すべき者には、即ち梵王
の身を現じて爲に法を説き、帝釋の身を以て得度すべき者に
は、即ち帝釋の身を現じて爲に法を説き、自在天の身を以て
得度すべき者には、即ち自在天の身を現じて爲に法を説き、大
自在天の身を以て得度すべき者には、即ち大自在天の身を現じ
て爲に法を説き、天大將軍の身を以て得度すべき者には、即ち
天大將軍の身を現じて爲に法を説き、毗沙門の身を以て得度す
べき者には、即ち毗沙門の身を現じて爲に法を説き、小王の身
を以て得度すべき者には、即ち小王の身を現じて爲に法を説
き、長者の身を以て得度すべき者には、即ち長者の身を現じ
て爲に法を説き、居士の身を以て得度すべき者には、即ち居士
の身を現じて爲に法を説き、宰官の身を以て得度すべき者には、
即ち宰官の身を現じて爲に法を説き、婆羅門の身を以て得度す
べき者には、即ち婆羅門の身を現じて爲に法を説き、比丘・
比丘尼・優婆塞・優婆夷の身を以て得度すべき者には、即ち
比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の身を現じて爲に法を説き、

長者・居士・宰官・婆羅門の婦女の身を以て得度すべき者には、
即ち婦女の身を現じて爲に法を説き、童男・童女の身を以て得度すべき者には、
即ち童男・童女の身を現じて爲に法を説き、
摩睺羅伽・人・非人等の身を以て得度すべき者には、
即ち皆之を現じて爲に法を説き、
執金剛神の身を以て得度すべき者には、
即ち執金剛神を現じて爲に法を説く。

無盡意、是の觀世音菩薩は是の如き功德を成就して、種種の形を以て諸の國土に遊んで、衆生を度脱す。是の故に汝等、應當に一心に觀世音菩薩を供養すべし。是の觀世音菩薩摩訶薩は、怖畏急難の中に於て能く無畏を施す。是の故に此の娑婆世界に皆之を號して施無畏者とす。

無盡意菩薩、佛に白して言さく、
世尊、我今當に觀世音菩薩を供養すべし。

即ち頸の衆寶珠の瓔珞の價直百千兩金なるを解いて以て之を與え、是の言を作さく、

仁者、此の法施の珍寶の瓔珞を受けたまえ。
時に觀世音菩薩肯て之を受けず。

無盡意、復觀世音菩薩に白して言さく、
仁者、我等を慰むが故に此の瓔珞を受けたまえ。

爾の時に佛、觀世音菩薩に告げたまわく、
當に此の無盡意菩薩及び四衆・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等を慰むが故に是の瓔珞を受くべし。

即時に觀世音菩薩、諸の四衆及び天・龍・人・非人等を慰んで其の瓔珞を受け、分つて二分と作して一分は釋迦牟尼佛に奉り、一分は多寶佛塔に奉る。無盡意、

觀世音菩薩は是の如き自在神力あつて娑婆世界に遊ぶ。

爾の時に無盡意菩薩、偈を以て問うて曰さく、

世尊は妙相具わりたまえり

我今重ねて彼れを問いたてまつる

佛子何の因縁あつてか 名けて觀世音とする

妙相を具足したまえる尊

偈をもつて無盡意に答えたまわく

汝觀音の行を聽け 善く諸の方所に應ずる

弘誓の深きこと海の如し 劫を歴とも思議せじ

多千億の佛に侍えて 大清淨の願を發せり

我汝が爲に略して説かん 名を聞き及び身を見

心に念じて空しく過ぎざれば 能く諸有の苦を滅す

假使害の意を興して 大なる火坑に推し落さん

彼の觀音の力を念ぜば 火坑變じて池と成らん

或は巨海に漂流して 龍・魚・諸鬼の難あらんに

彼の觀音の力を念ぜば 波浪も没すること能わじ

或は須彌の峯に在つて 人に推し墮されんに

彼の觀音の力を念ぜば 日の如くにして虚空に住せん

或は惡人に逐われて 金剛山より墮落せんに

彼の觀音の力を念ぜば 一毛をも損すること能わじ

或は怨賊の繞んで 各刀を執つて害を加うるに値わんに

彼の觀音の力を念ぜば 咸く即ち慈心を起さん

或は王難の苦に遭うて

刑せらるるに臨んで壽終らんと欲せんに

彼の觀音の力を念ぜば 刀尋いで段段に壞れなん

或は枷鎖に囚禁せられて 手足に杻械を被らんに

彼の觀音の力を念せば 釋然として解脱することを得ん

呪詛 諸の毒藥に 身を害せんと欲せられん者

彼の觀音の力を念せば 還つて本人に著きなん

或は惡羅刹 毒龍・諸鬼等に遇わんに

彼の觀音の力を念せば 時に悉く敢て害せじ

若しは惡獸圍繞して 利き牙爪の怖るべきに

彼の觀音の力を念せば 疾く無邊の方に走りなん

蚊蛇及び蝮蠍 氣毒煙火の燃ゆるがごとくならんに

彼の觀音の力を念せば 聲に尋いで 自ら回り去らん

雲雷鼓掣電し 雹を降らし大なる雨を澍がんに

彼の觀音の力を念せば 時に應じて消散することを得ん

衆生困厄を被つて 無量の苦身を逼めんに

觀音妙智の力 能く世間の苦を救う

神通力を具足し 廣く智の方便を修して

十方の諸の國土に 刹として身を現ぜざることなし

種種の諸の惡趣 地獄・鬼・畜生

生・老・病・死の苦 以て漸く悉く滅せしむ

眞觀・清淨觀 廣大智慧觀

悲觀及び慈觀あり 常に願ひ常に瞻仰すべし

無垢清淨の光あつて 慧日諸の闇を破し

能く災の風火を伏して 普く明かに世間を照す

悲體の戒雷震のごとく 慈意の妙大雲のごとく

甘露の法雨を澍ぎ 煩惱の蝕を滅除す

諍訟して官處を経 軍陣の中に怖畏せんに

彼の觀音の力を念せば 衆の怨悉く退散せん

妙音觀世音 梵音海潮音

勝彼世間音あり 是の故に須らく常に念すべし

念念に疑を生ずることなかれ 觀世音淨聖は

苦惱・死厄に於て 能く爲に依怙と作れり

一切の功徳を具して 慈眼をもつて衆生を視る

福聚の海無量なり 是の故に當に頂禮すべし

爾の時に持地菩薩、即ち座より起つて、前んで佛に白して

言さく、世尊、若し衆生あつて是の觀世音菩薩品の自在の業

・普門示現の神通力を聞かん者は、當に知るべし、是の人の

功徳少からじ。

佛、是の普門品を説きたもう時、衆中の八萬四千の

衆生、皆無等々の阿耨多羅三藐三菩提の心を發しき。